

住井するゑとその文学の里(四十一)

―牛久沼のほとり―

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功 くりはら いさお

日本海軍による真珠湾攻撃

―日米開戦―

昭和16年(1941年)12月8日(月)早朝、「大本営陸海軍部発表、帝国陸海軍は今八日未明、西太平洋において米英軍と戦闘状態に入れり」とラジオが報じ、これを犬田・住井夫妻は牛久沼畔の台地上のわらぶき屋根の家で聞いた。

『日本軍勝利のニュース』に大多数の日本国民は有頂天になった。

だが、かの文豪谷崎潤一郎は、エッセー『高血圧症の思い出』の中に、「蛇の目寿司で肉の代わりに鮪の凄い奴を大きな切り身にしてピフテキ風に焼いてくれたのでそれをマグテキと称して賞美した。その晩は開戦当日のことなので、私は必ずフィリピンかハワイ辺りから時を移さず爆撃機が襲来するところと思いきくビクビクしながら食べていた」と書いた。

同日、肺結核療養中の松岡洋右元外相は、私邸に訪ねてきた元外

務省外交顧問の斎藤良衛(松岡の下で日独伊三国同盟の締結を推進した)に、目に涙を浮かべて、「日独伊三国同盟の締結は僕一生の不覚だったことを今更ながら痛感する」と語った。

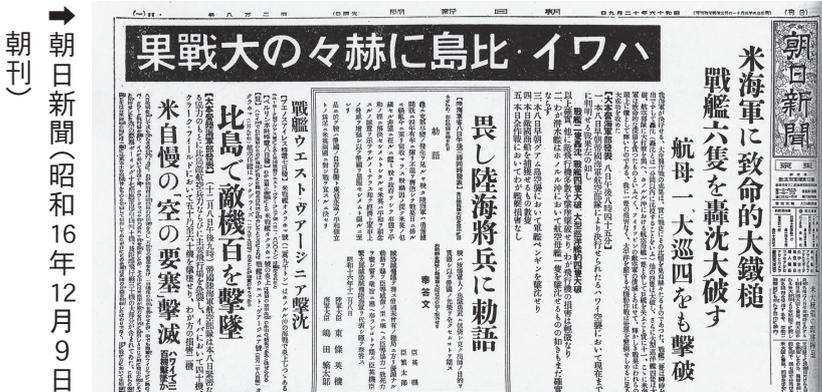
一方敵の米英両国ではどうだったのか。

アメリカでは、太平洋艦隊司令長官キンメル提督から、真珠湾被爆の至急電報を受け取ったノックス海軍長官が、これを直ちにルーズベルト大統領に電話で報告した。ルーズベルト大統領はともに昼食中のホプキンス補佐官に「日本人はこういう思いがけないことをやるやつなんだ」と落ち着いて話したようだ。

イギリスでは、チャーチル首相が地方のチェッカーズにある別荘で7日午後8時(日本時間8日午前5時)にラジオの定時ニュースを聞いていた。ロシア戦線報道の後、短く日本海軍の連合艦隊空母

艦載機によるパールハーバーへの攻撃が報じられた。この日の件は、チャーチル回顧録に『ヒトラーの運命は定まった。ムツソリーニ(イタリア首相)の運命も定まった。日本に至っては木っ端みじんに打ち碎かれるであろう』と記述された。

日本海軍のハワイ真珠湾攻撃を報じる新聞記事



→朝日新聞(昭和16年12月9日朝刊)



→いはらき新聞(昭和16年12月9日夕刊)



→東京日日新聞(昭和16年12月9日朝刊)